

◆ 調査の目的

市では「福井市食育推進計画」に基づき、食育を市民運動として展開する体制づくりや食に関する正しい知識の普及に取り組んでいますが、家族が共に朝夕食をとりながらコミュニケーションを図る共食は食育の原点であり、子どもへの食育を進める上で欠くことのできない場といえます。そこで、共食を行う家庭の割合について数値目標を掲げ、毎年調査を実施しています。

[詳しい設問と選択肢は「平成27年度 福井市民意識調査報告書」108ページを、](#)
[調査結果は52ページからご覧ください。](#)

家族と食事を食べる割合は、「朝食」が全体の63.5%、「夕食」が全体の85%との回答を得ました。朝食に関しては、全体の8.2%の方から「食べない」との回答を得ており、その割合は増加傾向にあります。

第六次総合計画では、朝食、夕食とも家族と一緒に食べる市民の割合について85%以上を目標値としていますが、今回の調査では60.3%と、前年と比較して5%下がりました。今年度は食育の推進と共食の啓発のため、以下の取組を実施しました。

★ 食育フェスティバルの開催

- ・子どもの学力と朝食摂取の関係のグラフをチラシに掲載し、子どもたちや保護者へ、朝食摂取の大切さについての啓発を行いました。
- ・『家族でいただきます!』をフェスティバルのテーマとし、家族での食体験企画を通じて共食の周知啓発を行いました。
- ・会場で、共食についてのアンケートを実施しました。

★ 関係会議における課題の共有と意見交換

- ・福井市食育推進会議、福井市食育推進対策会議、ふくい食育市民ネットワーク会議を開催しました。

★ ふくチャンネルCM製作

- ・今年度より毎月19日の食育の日を『家族でいただきますの日』とし、その周知・啓発のため行政チャンネル「ふくチャンネル」にてCM放送を始めました。

★ 小・中学校等における保護者への啓発

- ・保護者が集まる機会を捉え、朝食摂取の大切さや共食のよさについて、学校栄養教諭などにより説明を行いました。



◆ 調査の目的

毎年実施している人権啓発活動等の効果を確認するため、調査を行いました。

[詳しい設問と選択肢は「平成27年度 福井市民意識調査報告書」108ページを、](#)
[調査結果は55ページをご覧ください。](#)

調査により、人権課題のうち「子ども」（全体の27.7%）や「高齢者」（全体の17.7%）に関する人権に関心が高いことが分かったため、平成27年度においては、例年の啓発活動行事に加え、子ども向けの人権啓発の取組を拡充しました。また、高齢者に対する人権意識向上を図るため、平成28年度から新たな啓発事業に取り組みます。

★ 子ども向けの人権啓発

毎年12月4日から10日までの人権週間に合わせ、桜木図書館において、人権に関する絵本や児童図書を紹介する特設コーナーを開設していますが、今年度は市立図書館、みどり図書館でも特設コーナーを開設しました。

★ 高齢者に対する人権意識向上の取組

高齢者の人権を守るため、地域包括支援センターや医療機関等において、虐待防止などの啓発事業を平成28年度から実施します。



◆ 調査の目的

福井市では、男女共同参画社会の実現に向け、「福井市第4次男女共同参画基本計画（平成24年度～平成28年度）」に基づき、様々な施策の推進に取り組んでいます。年々、市民一人ひとりの男女共同参画に対する意識改革は着実に進んできています。

男女共同参画に対する市民の皆さんの意識を把握し、今後の施策推進の参考とするため、毎年調査を実施しています。

[詳しい設問と選択肢は「平成27年度 福井市民意識調査報告書」108ページを、](#)
[調査結果は56ページからご覧ください。](#)

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について市民の皆さんの意識を伺いました。調査結果については昨年度調査と比較してほぼ横ばいの結果となりました。

今年度も家庭や地域での男女共同参画を推進するため、以下の各種講座・セミナー等の啓発事業を実施しましたが、今後も市民の皆さんや男女共同参画推進員と連携し、様々な手法を用いて事業に取り組んでいきます。

★ 各種講座・セミナー等の開催

男女共同参画について考え、実践していく手法を学ぶための講座・セミナー等を開催しました。

★ 男女共同参画推進員による地域における啓発活動

各公民館から選出された98名の男女共同参画推進員の皆さんに、地域における啓発に取り組んでいただきました。

★ 『福井市男女共同参画市民フォーラム』の開催

一人でも多くの方に男女共同参画についての理解を深めていただくための啓発イベントを開催します。



◆ 調査の目的

福井市では、身近な話題や地域の情報、市の施策などを紹介するため、行政チャンネル「ふくチャンネル」を企画、製作し、ケーブルテレビで放送していますが、この「ふくチャンネル」の視聴状況等を把握し、広報効果の高い番組づくりの参考とするため、今回の調査を行いました。

[詳しい設問と選択肢は「平成27年度 福井市民意識調査報告書」109ページを、
調査結果は58ページからご覧ください。](#)

調査の結果、全体の6割以上の方が「ふくチャンネル」を「知っている」との回答を得た一方で、若年層の認知度が低いことや、定期的な視聴をいただけていない結果が得られました。

本調査結果を市民が参加する「番組モニター」意見交換会の資料として活用し、その課題や対策について話し合いました。今後も「ふくチャンネル」の認知度を高めるため、「ふくチャンネル」自体の広報に努めるとともに、番組内容の充実を図っていきます。

★「ふくチャンネル」のPR

- ・ 市政広報「ふくチャンネル番組情報」の見直し
番組内容等をわかりやすく伝えるため、これまでの番組名と放送時間のお知らせに加え、「ふくチャンネル」のトピックス記事（番組の見所や紹介記事など）を市政広報紙に定期的に掲載します。
- ・ 福井ケーブルテレビ（コミュニティチャンネル）との連携等を検討
福井ケーブルテレビコミュニティチャンネル内でのPRや、他の媒体を活用したPRなど、「ふくチャンネル」の視聴機会拡大に繋がるような取組について検討を進めます。

★行政チャンネルの特性を生かした番組づくり

番組視聴時間や年齢層についての調査結果をもとに、視聴者層を絞った番組づくりや番組編成について検討します。



参考 市ホームページ「[広報広聴課のページ](#)」

[福井市行政チャンネル「ふくチャンネル」のページ](#)

◆ 調査の目的

福井市では、平成22年に〔改訂〕福井市都市計画マスタープラン（都市計画マスタープラン）を策定し、その中で『暮らしの豊かさを実感できる「歩きたくなる」まち』を都市づくりの理念として掲げていますが、市民意識調査による市民の皆さんの評価を施策等の達成度や効果を計る指標として一部取り入れ、都市の将来像の実現を目指すための評価・検証を行っています。

[詳しい設問と選択肢は「平成27年度 福井市民意識調査報告書」110ページを、
調査結果は61ページからご覧ください。](#)

日常生活でバス・電車を「利用している」と回答している人は10.6%となっており、「利用していない」と回答している人は88.7%となっています。この結果を踏まえ、過度な自動車利用からの脱却を目指し、公共交通の利便性を高め、更に多くの方に公共交通を利用してもらえるように取り組んでいきます。

福井市の景観に対する印象については、「良いイメージ」を持っている人が43.7%、「悪いイメージ」を持っている人が23.4%と、「良いイメージ」が「悪いイメージ」を20.3ポイント上回っています。この結果を踏まえ、福井市固有の美しい景観の形成を目指し、更に多くの方に福井市の景観に対し良い印象を持ってもらえるように取り組んでいきます。



◆ 調査の目的

福井市では、環境に優しく、経済的で様々な利点をもつ自転車を活用したまちづくりを推進する取組を行っていますが、市民の皆さんの自転車利用状況や自転車施策に関するニーズを把握し、今後の参考とするため、今回の調査を実施しました。

[詳しい設問と選択肢は「平成27年度 福井市民意識調査報告書」110ページを、
調査結果は63ページからご覧ください。](#)

今回の調査により、自転車利用者の貴重なご意見をいただくことができました。これらを基礎資料とし、自転車の利用率を増やすため、自転車を利用しやすい環境づくりに取り組んでまいります。

全体の68.1%の方から、自転車の利用推進には「自転車道やレーンなどの自転車通行空間の整備」が必要であるとの回答を得ました。今後は、自転車マーク等の路面表示などにより安全な走行空間の確保に取り組んでまいります。

全体の37.9%の方から、「交通ルール・マナーの向上」が必要であるとの回答を得ました。今年度は、これまでに行っている各種イベントでのPRに加え、以下の取組を行いました。

- ・ホームページへのルール・マナーの掲載
- ・街頭での啓発活動
- ・福井市行政チャンネル「ふくチャンネル」での番組放映
- ・各種イベント（環境フェア、カーフリーデー、福井けいりん「ファミチャリフェスタ」等）での啓発



◆ 調査の目的

地震はいつ起こるか分からないうえに、私たちの生活に大きな影響を与える場合もあります。

地震時における住宅の安全性を市民の方がどれだけ意識しているか、また、診断・改修補助事業の広報活動を行っていく中で市民の皆さんの意識を把握し、今後の耐震化施策を進めるにあたっての参考とするため、今回の調査を実施しました。

[詳しい設問と選択肢は「平成27年度 福井市民意識調査報告書」111ページを、
調査結果は65ページからご覧ください。](#)

昭和56年5月以前に建てられた木造住宅が、強い地震が起きた場合に倒壊する可能性が高いと指摘されていますが、今回の調査結果により、当該住宅にお住いの方のうち82.4%が、大きな地震が発生した時に「被害を受ける」と回答している一方で、うち84.0%が耐震補強を行っていないことが分かりました。

更に、「耐震補強を行っていない」と答えた方のうち37.1%が「耐震改修工事を行うのは難しい」と回答していることから、耐震補強にむけた啓発活動を行いました。

福井市民意識調査の結果と「福井市建築物耐震改修促進計画」における旧基準の木造住宅が多い区域において戸別訪問を行い、当課で行っている木造住宅耐震診断・補強プランの補助事業や耐震改修工事補助事業についての説明等を行いました。その結果、直接市民の方から耐震化が進まない理由や市民の方が知りたい情報について聞き取ることができました。また、補助事業の申し込みを受けることもあり、一定の成果がありました。

平成28年度以降の取組として、補助事業の広報活動の見直しや、戸別訪問の中で得ることができた市民の方の疑問をホームページ上で公表することを検討しています。また、今後も戸別訪問を継続し、住宅の耐震化の必要性について理解を求めていきたいと考えています。



◆ 調査の目的

福井市では総合計画に基づいた計画的な行政運営に取り組んでいます。第七次総合計画（平成29～33年度）の策定にあたり参考とするため、市民の皆さんの意向を伺いました。

[詳しい設問と選択肢は「平成27年度 福井市民意識調査報告書」113ページを、調査結果は70ページからご覧ください。](#)

現行の第六次総合計画では、将来都市像「自然・活気・誇りにみちた 人が輝く かえりたくなるまち ふくい」の実現を目指し、多岐にわたる政策・施策に取り組んでいます。

今回の意識調査では、全体の88.0%の方から「これからも福井市に住み続けたい」との回答を得ました。前回（平成23年度）の同様の調査と比べて、福井市に住み続けたい人の割合は増えており、総合計画に基づいて取り組んできた各種施策の効果が表れたものと考えられます。

次期計画についても、誰もが住み続けたい、住んでみたいと思える福井市づくりを進めるため、これまでの理念を受け継ぎ策定することとします。

また、今年度策定した「福井市まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン・総合戦略」においても「福井市に住み続けたいと思う市民の割合」を数値目標の一つとして決めました。



◆ 調査の目的

福井市では土地区画整理事業によって生まれた新しい土地「保留地」を販売していますが、広く土地購入者層の実態及び保留地販売に関する認知度を把握することで、今後の効果的な保留地販売促進広報につなげるため、今回の調査を行いました。

[詳しい設問と選択肢は「平成27年度 福井市民意識調査報告書」114ページを、
調査結果は72ページからご覧ください。](#)

全体の47.6%が保留地を販売していることについて「知らない」と回答し、保留地を販売していることを知った広報媒体として「市政広報紙」(31.7%)、「新聞広告」(30.9%)と回答を得た点に着目し、より多くの方々に保留地販売について広く周知するため、以下のとおり広報活動を行いました。

★ 新聞広告掲載の強化

昨年度新聞広告実績(12回)に比べて、今年度の新聞広告掲載回数は22回と回数を増やしました。

★ 市有施設での広報強化

庁内掲示板18箇所へ販促ポスターを掲示し、庁内1F市民ホール電子掲示板にも販促資料を掲載しました。

土地を購入する場合、全体の53.3%の方が「不動産会社」から情報を得ていることに着目し、今年度は約100社の県内不動産業者に加え、ハウスメーカーや工務店等に対しても保留地販売に関する営業を行い、販売促進につなげました。



◆ 調査の目的

福井市では、みどり豊かなまちづくりを目指して、都市緑化の推進に取り組んでいますが、今後の緑化取組に反映するため、市民の皆さんのご意見を伺いました。

[詳しい設問と選択肢は「平成27年度 福井市民意識調査報告書」115ページを、
調査結果は75ページからご覧ください。](#)

お住まい近くの緑の量と公園の量に対する満足度について、全体の約8割の方から緑の量、公園の量ともに「満足している」との回答を得ており、これまでの緑化推進事業、公園整備事業について一定の評価を得られました。今後も皆さんが愛着を持って利用できる公園づくりや、緑を感じられるまちづくりのために取組を進めていきます。

公園に行く目的について、全体では多目的広場の利用（33.3%）、ベンチでの休息（30.6%）、児童用遊具の利用（29.5%）がほぼ同程度の割合となりましたが、性別、又は年齢別に見るとその割合は異なる結果となり、ニーズの違いが確認できました。

今後も幅広い世代の利用に対応できるよう、公園の整備、改修に取り組んでいきます。

足羽山公園へ求めたいことについて、全体の42.1%の方から「駐車状況をよくすること」との回答を得ました。また、「原生植物の保全」が必要であると回答された方が全体の20.9%、「古くなった道路・建物の更新」が必要であると回答された方が全体の19.3%でした。

今年度は、歩行者の安全対策のため、老朽化した道路の幅を広げて再整備を行いました。今後は調査の結果に基づき、駐車状況の改善とともに、足羽山の自然環境を守りながら、足羽山公園がこれまで以上に「ひと」が集う魅力的な場所となるよう、皆さんの意見を反映させながら、整備に努めていきます。



◆ 調査の目的

福井市では良好な環境の保全と創造のための施策を総合的かつ計画的に進めていくため、平成12年度に環境基本計画を策定していますが、時代に応じた環境施策を市民組織・事業者・行政の各主体が連携・協働して取り組んでいくことを目的に、平成27年度に改定を行いました。

今回の調査は、計画の改定にあたり、市民の皆さんの意見を参考にするために実施しました。

[詳しい設問と選択肢は「平成27年度 福井市民意識調査報告書」116ページを、](#)
[調査結果は79ページからご覧ください。](#)

福井市環境基本計画の改定において、目指す環境像「未来へつなごう 環境にやさしい持続可能なまち・ふくい」の実現に向けた基本方針や施策に以下のように反映させました。

★ 協働による里地・里山の保護と利活用

「将来に守り伝えたい自然」として、全体の44.6%の方から「地域の里地・里山」との回答を得ました。

「協働による里地・里山の保護と利活用」を施策の1つとして掲げ、地域住民や市民組織等が行う環境活動の支援や、市民の憩いの里山である「足羽三山」等の自然環境保全の取組を地域住民や市民組織等と協働して行っていくこととしました。

★ 環境負荷の少ない交通環境の構築

「今後取り入れたいと考えている、又は関心のある環境配慮型の製品」として「電気自動車などの次世代自動車」が全体の25.7%と最も高い回答を得たことから、「環境負荷の少ない交通環境の構築」を施策の1つとして掲げ、次世代自動車等、ガソリン自動車よりも環境負荷が少ない乗り物への利用転換を図っていくこととしました。

★ 環境教育、環境学習の推進

地球温暖化対策に必要な取組として、「家庭での省エネ行動」と回答した方が全体の63.3%と最も高い割合となったことから、一人ひとりが環境問題について関心と理解を深め、自ら考え、行動できる「人」づくりが大切と考えました。環境に関する意識の向上を図る「環境教育・環境学習」や「学校教育における環境学習の活動」の推進を施策として掲げました。



◆ 調査の目的

市民のごみの減量や資源化に対する意識を調査し、今後の廃棄物の処理に関する施策の参考にするために実施しました。

[詳しい設問と選択肢は「平成27年度 福井市民意識調査報告書」117ページを、
調査結果は82ページからご覧ください。](#)

新聞や雑誌などの「古紙類」については全体の89.9%の方から資源物として集団資源回収やスーパー等の店頭回収に出しているとの回答を得た一方で、包装紙や紙袋などの「雑紙」については全体の56%の方が燃やせるごみとしてごみステーションに出しているとの回答を得ました。

このことから、「雑紙」の集団資源回収を更に促進するため啓発を行いました。

空き缶・空きびん・ペットボトルについては全体の94.4%の方から資源物としてごみステーションやスーパー等の店頭回収に出しているとの回答を得ており、市民の方のリサイクルに対する意識が非常に高いことが分かりました。また、ごみの減量化・資源化を進めるためには、全体の62.1%の方から「いつでも資源物を持ち込める回収場所を増設する」ことが効果的であるとの回答を得ました。

現在、福井市では資源物回収拠点や、店頭で無料引取りを行っている古紙業者等をHPで紹介していますが、今後も市有施設や民間事業者施設への回収場所増設について検討していきます。

今後も、ごみの減量化・資源化を促進するため、市民への情報提供や出前講座、分別説明会の開催など広報活動を継続していきます。



◆ 調査の目的

福井市では平成26年度に「福井市施設マネジメント計画」を策定し、計画の推進にあたっては、施設利用者、住民、将来世代の意見を踏まえ、世代や地域ごとに必要なサービスを考慮した施設の適正な配置・整備を検討することとしています。

市有施設全体の最適化、長寿命化及び更新コストの平準化を図り、将来にわたり安定的に行政サービスを提供するため、市民の皆さんの公共施設に関する意識をお伺いし、今後の施設マネジメントの推進の参考にさせていただくため、今回の調査を実施しました。

[詳しい設問と選択肢は「平成27年度 福井市民意識調査報告書」118ページを、](#)
[調査結果は86ページからご覧ください。](#)

調査の結果、「開館（開庁）時間が短い」などの市民サービスの向上についての意見や「設備が古い」などの建物についての意見が多いとの回答が得られました。この結果を踏まえ、市民の方々にとって利用しやすい公共施設を目指し、運営面での改善や老朽箇所の改修等に取り組んでいきます。

今後、建替えや修理などに多くのお金が必要となる公共施設について、どのように進めていくべきかとの質問に対し、全体の69.3%の方から、施設量の「総量維持」又は「総量縮減」との回答が得られました。施設の「長寿命化」「集約化」「複合化」等を進めることにより、市民サービスの水準を維持しつつ、施設にかかる費用の抑制に努めていきます。

空き教室等の余裕スペースの活用方法について、27.1%の方から「児童の放課後の居場所」との回答を得ました。現在も学校の余裕スペース等を児童クラブ等で利用しているところですが、今回の調査結果を踏まえて、今後一層の余裕スペースの有効活用を図っていきます。



◆ 調査の目的

図書館サービスを考える上で、通常図書館に来館していただけない市民の意識を知るため、調査を行いました。

[詳しい設問と選択肢は「平成27年度 福井市民意識調査報告書」119ページを、
調査結果は92ページからご覧ください。](#)

全体の61.5%の方から「1年以上図書館を利用していない」との回答を得ました。特に70歳以上の方の割合が64.9%と高くなっています。

図書館では、移動図書館を利用して、高齢者施設などへ訪問貸出を行っています。

福井市図書館を利用しない理由として、全体の26.7%の方から「本を読まない」との回答を得ました。

図書館では、本を読まない方に対しても色々な機会を通じて本に親しみ、図書館について知っていただけるよう、季節に合わせた読み聞かせ会や、様々な年代の方を対象とした講演会や体験会、工作イベント等を実施しています。また、館外での取組として、公共施設や民間企業と共同し、各種イベントに合わせて会場に出向き、出前図書館による図書の紹介や貸出を行っています。

今後も人と学びを繋ぐ場として、積極的に活動していきます。行事のお知らせや取組の紹介は、ホームページやSNS等で随時お知らせしています。



参考 [「福井市図書館ホームページ」](#)

福井市図書館（5館）の蔵書検索や予約ができます。
移動図書館の巡回予定、行事の案内、
SNSページへのリンク等もこちらからご覧ください。

◆ 調査の目的

平成 26 年 11 月に中央卸売市場の一部を一般開放した「ふくい鮮いちば」についての市民の認知度を調査するとともに、今後の広報や開放のあり方の参考とするため、調査を行いました。

[詳しい設問と選択肢は「平成 27 年度 福井市民意識調査報告書」120 ページを、
調査結果は 95 ページからご覧ください。](#)

全体の 65.2%の方が「ふくい鮮いちば」を「知っている」との回答を得ましたが、そのうち 45.6%の方が「知っているが、行ったことがない」との回答を得ました。そのため様々なツールを活用して周知を図りました。

★ 「テレビ、ラジオ」「新聞」での広報

全体の 39.6%の方から「ふくい鮮いちば」を「テレビ、ラジオ」で知ったとの回答を得たことから、福井市場情報番組「市場NOW!」の放送内容を見直し、「ふくい鮮いちば」を題材にした番組を増やしました。また、全体の 20.7%の方が「新聞」で知ったとの回答を得たことから、「ふくい鮮いちば一周年祭」のチラシを新聞に折り込みました。

★ 場内マップやリーフレットの配架

リーフレットを増刷し、公民館等の市有施設や宿泊施設などに配布して、PR に努めました。

「ふくい鮮いちば」をよりよいものにするには全体の 40.0%の方から「日曜・祝日も開催する」との回答を得、また、30.5%の方から「定期的なイベントを実施する」との回答を得ました。今年度は年間 6 回のイベントを開催していますが、今後の取組についても主催者であるふくい鮮いちば実行委員会と協議していきます。

広報活動に取り組んできた結果、平成 27 年 9 月から翌年 1 月の期間中、12 万 4 千人以上の方にご来場いただきました。今後は更なる集客のため、地元消費者だけでなく出張等で福井を訪れるサラリーマンや観光客にも広報を強化していきます。

また、「ふくい鮮いちば」を魅力ある売り場とするため、ふくい鮮いちば実行委員会と協力しながら、サービスの向上や多種多様な品揃え、飽きのこない売り場の提供に取り組んでいくとともに、イベントの開催や内容の充実を図っていきます。

